

藤原正光先生のご退職にあたって

太郎良 信

藤原正光先生は、埼玉大学教育学部を卒業後、東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程を経て、1978年10月に本学に着任されました。それから37年6カ月もの長きにわたって教育と研究と校務に尽力され、2015年3月をもって定年退職されることとなりました。ご健康で定年を迎えられることに対して、心よりお喜びを申し上げます。

藤原先生は、教育学部教職課程に助手として着任されたのち、1981年には専任講師、1985年には助教授、1992年には教授に昇任されています。今日に至るまで、主に、教育心理学、社会心理学分野にかかわる研究と教育に従事してこられました。研究業績につきましては、次ページ以降において詳細に示されておりますので、ここでは、教育と校務について記していくこととします。

1992年には、本学の教育専攻科が発足しました。森島久雄専攻科長のもと、藤原先生は、運営委員（担任）として、研究論文執筆のための夏合宿や秋の芋煮会など、専攻科生にとって節目のある生活スタイルをつくりあげることに尽力され、2006年からの3年間は専攻科長も務められました。また、1998年からは7年間にわたり、就職委員長（当初は越谷、2001年からは全学）として、とりわけ教員就職率の向上にむけて大規模の教採対策合宿を企画するなどの抜本的な取り組みに尽力され、大きな成果を上げてこられました。

2003年には、短期大学の改組に連動した大学改組の一環として、教育学部に心理教育課程が発足することとなりました。教職課程の教員のなかから藤原先生と平沢茂先生と太郎良の3人が心理教育課程に移ることとなり、大橋ゆか子学部長のもとで、課程の構想と立ち上げ、その後の運営にかかわることとなりました。発足後、藤原先生は児童心理教育コースの主任として10年間にわたり授業や学生指導も含めて、運営全般において尽力してこられました。また、最近の2年間は、心理教育課程長として、課程の運営全体に責任をもつとともに、教育学部の運営全般についても力を発揮してこられました。

現在、教育学部では、グローバル化しつつある現代社会への対応の一つとして、2016年度から学校教育課程の入学定員を増やして英語専修を設置し、英語科教育や外国語活動の指導の得意な教員を養成するという計画を進めています。2015年3月には文部科学省に申請しなければならないという時間的な制約のもとで、英語専修のカリキュラムづくりや申請書類の作成、採用人事など、知恵も根気も体力もフル活用しなければ前に進めない状況にあります。そうした事情のため、退職を控えておられる藤原先生にも学校教育課程長、教職課程長と同様に尽力していただきました。2020年の東京オリンピック開催の年には、「英語専修の卒業生が教師になりました」という報告ができますよう、頑張ってください。

ところで、スキーの得意な藤原先生は、学生の課外活動においてスキー部の顧問を務めてこられました。それに加えて、教員間の「課外活動」として、毎週木曜日午後のテニスの練習がありました。おそらくは、退職後も、毎週木曜日には、その「課外活動」のために「登校」されるものと察しております。そうしたことも含めて、さまざまな形で、今後とも、本学との関係を維持し、私どもを見守っていただきたく思っております。よろしく、お願い申し上げます。

先生におかれましてはご健康に留意されていっそうご活躍されますことを念じつつ、お送りすることばとさせていただきます。

（たろうら しん 文教大学教育学部長）